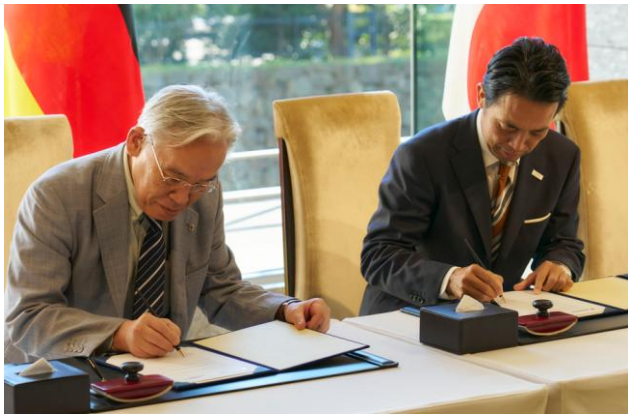
Press

2026 年 11 月 27 日

シーメンスヘルスケア、日独ビジネスサミットの調印セレモニーで医療分野における2つの連携を発表

～国立がん研究センター中央病院との共同研究および徳洲会グループとの基本合意を通じ、日独の技術協力から生まれたイノベーションのさらなる臨床活用を推進～







シーメンスヘルスケア株式会社（本社：東京都品川区、代表取締役社長：櫻井 悟郎）は、2026 年 10 月 28 日、ドイツのフリードリヒ・メルツ連邦首相の訪日にあわせて東京都内で開催された日独ビジネスサミット

シーメンスヘルスケア株式会社
コミュニケーション部

東京都品川区大崎 1-11-1
ゲートシティ大崎ウエストタワー

に参加し、同サミットに付随して行われた調印セレモニーにおいて、国立がん研究センター中央病院および医療法人徳洲会との医療分野における 2 つの取り組みを紹介しました。

国立がん研究センター中央病院と、「放射線医学分野におけるフォトンカウンティング CT※1 の臨床的有用性に関する研究」を共同で実施することに合意しており、今回、この取り組みを、日独両国の医療・科学分野における協力事例の一つとして紹介しました。

また、医療法人徳洲会とは、フォトンカウンティング CT の適正かつ安全な使用と、実臨床におけるさらなる活用を目的とする基本合意書（MOU）を締結し、同セレモニーにて調印式を行いました。今後、徳洲会はフォトンカウンティング CT の実臨床におけるさらなる価値創出と臨床活用の推進に取り組み、シーメンスヘルスケアは、製品の性能・使用方法に加え、有効性・安全性に関する医学的・科学的情報や、関連する専門的・学術的情報を提供します。

今回紹介された 2 つの取り組みは、日本とドイツの長年にわたる技術協力によって生まれた医療イノベーションを、日本における先進的な研究と幅広い実臨床の双方につなげていくものです。

シーメンスヘルスケアのフォトンカウンティング CT を支える検出器技術は、日本とドイツの長年にわたる技術協力を背景に発展してきました。今回、国内を代表するがん研究・医療機関である国立がん研究センター中央病院における研究と、全国に医療施設を展開する徳洲会における臨床活用という、それぞれ異なる取り組みが日独ビジネスサミットの場で紹介されたことは、日独の技術協力の成果が、次世代の医療を切り拓く研究に活用されると同時に、日本全国の患者さんが日々利用する医療現場へと広がっていくことを示しています。

シーメンスヘルスケアは今後も、日本の医療機関や研究機関との連携を通じ、革新的な医療技術の研究および臨床活用を推進し、日本とドイツの強みを生かしたイノベーションを、より良い医療の実現につなげてまいります。

※1 ：X 線の光子を直接検出・計測することで、高精細な画像を実現する次世代の CT 技術。

シーメンスヘルスケア株式会社、シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社、株式会社バリアン メディカル システムズは、グローバルなメドテックカンパニー、Siemens Healthineersの日本における事業会社です。Siemens Healthineersは、ドイツ・エアランゲンを本拠とし、世界70カ国以上に拠点を置き、180カ国以上で事業を展開しています。「We pioneer breakthroughs in healthcare. For everyone. Everywhere. Sustainably. ヘルスケアを、その先へ。すべての人々へ。」というPurposeのもと、CT、MRI、マンモグラフィなどをはじめとする画像診断装置や、免疫や生化学検査のための体外診断薬・検査装置、画像ガイド下治療や先進的ながん医療のための医療機器を提供しています。また、医療従事者の方々が高品質で効率的なケアを提供できるよう、デジタルヘルスケアサービスや病院経営に関するソリューションも積極的に拡充しています。2026年9月末までの2026年度における全世界の売上は約236億ユーロ。全世界で約7万5千人の社員が活躍しています。詳しい情報はこちらでご覧いただけます。
グローバルサイト：www.siemens-healthineers.com
日本のサイト：www.siemens-healthineers.com/jp/